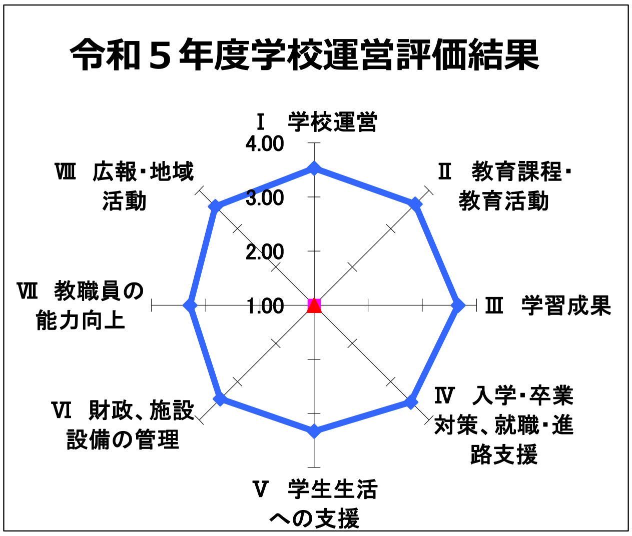
令和５年度学校運営評価結果

区分	R５評価
Ⅰ　学校運営	3.53
Ⅱ　教育課程･教育活動	3.64
Ⅲ　学習成果	3.66
Ⅳ　入学･卒業対策、就職･進路支援	3.53
Ⅴ　学生生活への支援	3.33
Ⅵ　財政、施設設備の管理	3.45
Ⅶ　教職員の能力向上	3.29
Ⅷ　広報･地域活動	3.58
平均	3.50



○今年度の学校運営最終評価の結果、8項目の平均評価は、3.29～3.66、全体平均3.50で「満たしている」の評価結果で、昨年度の最終に引き続き、同程度の高い評価結果であった。

〇8項目中、最も高かったのは、「Ⅲ学習成果」平均3.66で、次に「Ⅱ教育課程・教育活動」平均3.64の順であった。「Ⅲ学習成果」については、昨年度以上にさらに高い結果となった。中でも「11.退学率の低減を図っているか」の項目が3.70と最も高く、定期・個別面接で状況を把握し、適宜相談に応じ、未修了科目を持つ学生への継続的な支援を丁寧に行っていることなどにより退学者が少ないことが評価されていると考える。

〇また、全項目中、「Ⅱ教育課程・教育活動」の「８:実習時の安全体制が整っているか」の項目が3.78で最も高く、「インシデント等を安全教育に活かして指導を行っている」「実習先と連携を取りながら、随時行っている」の意見にあるように、安全教育や実習先との調整が評価された結果といえる。

〇一方、「Ⅶ　教職員の能力向上」については、昨年度より0.12ポイント下がった。「教務会で学会参加・研修等の報告をし、学びを共有している」「専門領域認定追加1名された」の意見により評価されてはいるが、「他の業務と重なり、授業参観をする時間がとれない。」の意見があるように、教員の資質向上のためにも授業参観相互評価の取組みの必要性は理解していてもできないことのジレンマが背景にあると考えられる。組織的に、参観しやすい環境を皆で整えていく必要がある。

〇今年度、新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられたものの、インフルエンザの急増等もあり、引き続き感染予防対策を継続しての新カリキュラム2年目の学校運営であった。教員の欠員で、様々な課題が生じる中、新任教員２名（1名は11月から）を迎え、教職員全体の協力のもと、今年度の組織目標、教育目標達成に向けて創意工夫しながら学校運営に当たることができた。この結果を受け止め、次年度も引き続き、感染防止対策を継続し、組織目標達成に向けて、全職員で学校運営に携わっていけるよう努めていきたい。